

平成30年度
埼玉県技術・家庭科
懇話会

会報

第40号

平成31年3月31日発行

懇話会会長あいさつ「いまを生きる」

埼玉県技術・家庭科懇話会
会長 羽島 隆夫

30年間続いた「平成」も、今思うとあっという間の30年であったように思います。

さて、平成の30年間を、「情報」の視点で振り返って見ました。ご自身の生活と重ね合わせて見てください。あの頃、どこで、何をしていた頃かと・・・。

◇平成7年(1995年) Windows 95が提供され、これまでは軍事利用が中心であったインターネットが私たちにも手軽に利用できるようになりました。「情報基礎」の指導も、コンピュータ会社の違いを意識すること無く様々なデータが共通に利用できるようになりました。

◇平成11年(1999年)「iモード」が携帯電話に採用され、携帯電話の機能が一層進み、携帯メールが簡単にでき、情報化は一層進展しました。

◇平成12年(2000年)「情報化社会」という言葉から「情報社会」そして「高度情報化社会」へと「IT革命」が進み、アナログの電話回線から、ADSL、そして光ファイバー回線へと、より高速で、大容量のデータを送れるようになりました。

◇平成17年(2005年) ブログ、ミクシーといった情報交換のシステムの構築も進みました。

◇平成23年(2011年) スマートフォンが登場し、今までの携帯が「ガラ携」と呼ばれるようになり、電車の車内では、新聞を読むより、黙々とスマホを操作し、「歩きスマホ」による事故まで発生するようになりました。通信データ速度も3G、4Gと進み、間もなく5Gの時代となります。テレビも4K、8Kと、より精細なデータがより高速で送られるようになります。今後、「IoT」の進行、より高度な「GPS」の活用など、情報革命は更に進展することでしょう。

このように平成30年の間にも、いろいろな変化がありました。変化の激しい時代において、未来に生きる子供たちに今、どのような力をつけておけばよいのか、様々に模索しながらの時代ではありますが、未来志向の「いまを生きる」精神を大切にして、ご指導いただくことを願います。

昨年は懇話会総会時に、「いま学校で行われている授業」をワークショップ形式で見せていただきました。先生方の様々な努力の姿勢に敬服いたします。今後とも、埼玉(さいたま)の子供たちのためご尽力ください。本年も宜しくお願いします。

研究会会長あいさつ

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会
会長 松崎 和則
(鴻巣市立鴻巣北中学校長)

埼玉県技術・家庭科懇話会の羽島隆夫会長様をはじめ会員の皆様方には、物心両面からの御支援に衷心より御礼申し上げます。

いよいよ来年度から本教科は新学習指導要領のもとスタートを切ります。この準備として本年度は、研究の趣旨であります「主体的・対話的で深い学び」となるよう見方・考え方を働かせて、技術の最適化やよりよい生活を営むための工夫の在り方に視点をおいてきました。また、懇話会で研究成果の発表の機会を与えていただき、研究の方向性をまとめることもできました。感謝を申し上げます。

SAITAMA創造ものづくり教育フェアでは、新企画としてロボコン・生徒作品展をイオンモール与野で開催し、たくさんの地域の方々等に中学生の頑張りを見ていただきました。また、第19回全国創造ものづくり教育フェアにおいて埼玉県が

「お弁当コンクール」や「ロボコン」等の企画運営に大きく携わり本県のレベルの高さを実感しております。

関東甲信越大会では、多くのことを学ぶことができ充実した研修となっております。平成30年度の関ブロ長野大会で御提案していただいた先生方に感謝を申し上げるとともに、2月22日(金)に実施されました教員研究発表会が文部科学省教科調査官 上野耕史様をお迎えして充実した研修になりましたことに喜びを感じております。今後とも文部科学省・本県教育委員会・埼玉大学等の引き続きの御指導をお願いしてまいります。

結びに、埼玉県技術・家庭科懇話会が本県技術・家庭科教育の支えとなることを願うとともに、若返っている本県教員の御指導と御示唆をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。